



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース 第50号 (Vol.13 No.2)
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1983, 50, p. 2-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65572
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

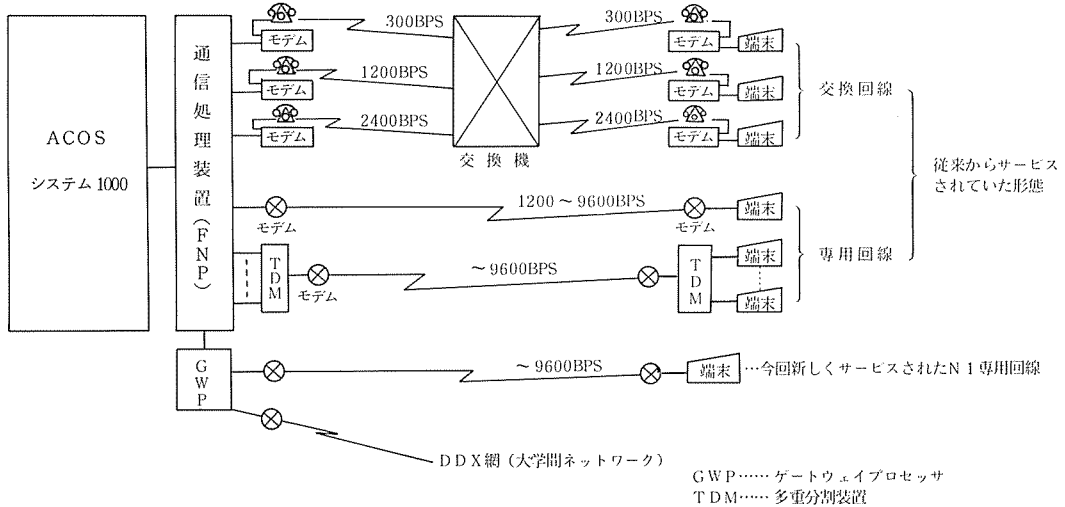
N 1 専用回線のサービスについて

本センターでは、専用回線の端末を接続する時、伝送制御手順としてレベル0（無手順）、レベル2 A、レベル2 Bのいずれかを用いてサービスを行っていましたが、今回新たにN 1 制御手順による専用回線の接続ができるようになりましたのでお知らせいたします。

このN 1 制御手順は、大学間ネットワークに利用されている伝送制御手順と同様に本センターのT S S処理、リモートバッチ処理および他センター（大学間ネットワーク）のサービスが受けられます。N 1 専用回線で端末を設置する場合は必ず事前にセンターに連絡するようにお願いします。

なお、端末設置に関することについては業務掛（内線 2810）へ問合せください。

オンラインサービスの端末接続形態図



(業務掛)

昭和58年度後期利用者講習会計画

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容	受 講 対 象
10月26日 (木)	10 : 40 ～ 16 : 30	FORTRAN 77 について	○ FORTRAN の知識のある人を対象に ACOS FORTRAN 77 の文法とプログラミング技法について述べる。	FORTRAN 文法習得者
10月27日 (木)	10 : 40 ～ 14 : 00	FORTRAN 77 (V) の 使用法	○ FORTRAN 77 (V) ジョブを実行するうえでの a コンパイラ オプション の使用法 b 入出力技法 c エラーの原因と対策 について説明を行う	〃
11月9日 (木)	10 : 40 ～ 16 : 00	第3回TSSとファイル の利用方法について (講義)	○ FORTRAN の知識のある人を対象に TSS のコマンドとファイルの利用方法について説明する	FORTRAN 文法習得者で、 初めてTSSを 利用する者
11月10日 (木)	10 : 40 ～ 16 : 30	第3回TSSとファイル の利用方法について (実習)	○ TSS 端末の操作方法とコマンドを 一人 90 分づつ実習を行う	11月9日の講 義を受講した者
11月11日 (金)	10 : 40 ～ 16 : 30	〃	〃	〃
未 定	未 定	PROLOG について (SHAPE UP)		

ページプリンタのサービスについて（再掲載）

4月2日より、日本語の出力ができるレーザービーム方式のページプリンタのサービスを開始いたします。ページプリンタは当分の間クローズ処理といたしますので、ページプリンタに出力されたリストは返却棚へ返却いたします。（「MAIL」の指定を行って出力されたリストは 連絡所へ郵送する）

なお、ページプリンタへの出力は次のような方法で行うことができます。

(1) バッチジョブ

バッチジョブでリスト（出力結果）をページプリンタへ出力する時は、「\$JOB」カードの第6オペランドフィールドで「JPR」と「\$JOBDEF」カードの指定を行う。

（センターの返却棚へ出す時）

```
$      JOB      課題番号$パスワード, ジョブクラス, , , JPR
$      JOBDEF    FORMSET=NORMAL

}

$      ENDJOB
```

（連絡所へ郵送する時）

```
$      JOB      課題番号$パスワード, ジョブクラス, MAIL, , , JPR
$      JOBDEF    FORMSET=NORMAL

}

$      ENDJOB
```

(2) TSS コマンド

TSS のコマンドを利用してファイルの内容をページプリンタへ出力する方法

```
*$FPRIJ ファイル名 ..... ①
FORMSET ? (CR) ..... ②
SEND BY MAIL (YES OR NO) ? N ..... ③
JOB CLASS (E, A, B, C) ? E ..... ④

SNUMB = C514T
```

① 従来の「\$FPRINT」コマンドの後に「J」を指定すると、ファイルの内容はページプリンタへ出力される。

② (CR)を入力する。

③ 出力結果を連絡所送りにする時は 「Y」 }
 " " しない時は 「N」 } を入力する。

（吹田地区の課題番号で使用した時は、このメッセージの問合せはありません）

④ ジョブクラスを入力する。

（業務掛）

TSSにおけるFORTRAN77およびFORTRANについて (再掲載)

(1) 制限事項

58年4月1日現在、以下の制限事項がありますが、いずれも次のOSのバージョンアップと同じ時期（58年8月頃）に解除される予定です。

① 組み込みサブルーチン FPARAM の引用が無効となることがある。

一つのプログラム内において、組み込みサブルーチン FPARAM を引用して端末装置に対して入力促進記号を変更するとき、一度端末装置から入力を実行した後はこれ以後の FPARAM の引用は無視され、最初に適用された入力促進記号が最後まで有効となる。また 1 行当りの印字数を変更するために FPARAM を引用するときは、一度端末装置に出力を実行した後は上記と同様となる。

対象サブシステム名 : FRT 77, FORTV.

例 READ (5, *) I ← ① 端末には①, ②ともに I * ? が印字される。

CALL FPARAM (3, ▼????▼) 正しくは④ではI*?, ⑥では????である。

READ (5, *) J ← ⑥

② TERMINAL オプションを使用できない。

FRT 77 サブシステム下で、RUN コマンドに TERMINAL オプションを指定しても無視され、これを指定しなかった場合とまったく同じ動作となる。

(2) RUN コマンドの追加

FRT 77 サブシステム下において、インライン展開のオプションの指定が2月4日より下記の形も可能になりました。なお、従来の N I N L I N E および I N L I N E も引き続き使用 できます。

$$\text{INLINE} = 0, \text{ INLINE} = 1, \text{ INLINE} = 2$$

(3) その他

FRT 77 サブシステム下における MATHLIB-6 およびセンターライブラリー を使用する
ときの RUN コマンドのオプションは下記のとおりです。

○ MATHLIB-6を使用 RUN : L = LIB/MLIB7

○センターライブラリーを使用 RUN : L = LIB/CLIB7

○ MATHLIB - 6 と センターライブラリーを使用

```

RUN  : L = LIB/MLIB7  L = LIB/CLIB7

```

(注意) リードパーミッションの指定は不要です。指定するとエラーとなります。

(誤例) RUN : L=LIB /MLIB7, R 不要

(研究開発部)

FORTRAN 77 (V) 用の MATHLIB-6 について (再掲載)

4月25日(月)から、下記の追加および変更を行いますので注意して下さい。これらの追加、変更を行う前の状態などについては、速報No95(1982年8月発行)を参照して下さい。

(1) サブルーチンの追加

下記の15個のサブルーチンが使用可能となります。

SCDQR, SCGVNS, SKROMB, SLAUTG, S0PLT1, S0PLT2,
S3INR1, S3NOR1, WLAUTG, WLRK45, W0PLT1, W0PLT2,
W3INR1, W3NOR1, VCEIG1

これらの追加により、FORTRAN のRモードから使用できるものは、すべて使用できることとなります。

(2) コンパイルオプションの変更

MATHLIB-6 のオブジェクトプログラムを作成する時のコンパイルオプションを下記に変更します。なお、使用方法については変更はありません。

V, OPT = 2, INLINE = 2, NROUND, IAP, COMPAT, 他は既定値。
(研究開発部)

TSS コマンドの NTSS サブシステムについて (再掲載)

現在、ネットワークで他大学のTSSを利用する場合は、“\$\$\$CON, NETWK”でコネク
トしていましたが、5月2日より、TSSとコネクした後、NTSS コマンドを入力して他大学
を利用することが出来るようになります。これは暫定リリース版で正式版は6月中旬になり、“N
ETWK”とコネクしていた時に利用出来たファイル転送コマンドは使用できません。利用出来
るものとして CLOSE・DONE・BYEとブレイクです。

また、端末の属性は、TSSとコネクした時の属性が標準となりますが、グラフィック・モー
ドはASCと扱われます。

6月中旬からは、“\$\$\$CON, NETWK”が使用出来なくなり、ファイル転送 etc のコマ
ンドが利用可能になります。

① 機能

- ・ 相手サーバ HOST との会話開始処理
- ・ “ ” 会話終了処理
- ・ 相手サーバ HOST との会話処理
- ・ 利用者からの要求によるブレイク処理
- ・ NVT 識別文字の変更

- ファイル転送機能（現在使用できません）

② 使用例（阪大から東大を使用する場合）

SYSTEM ?NTSS <————— NTSS コマンドの入力。

** NVT SERVICE START **

HOST ?TOKYO <————— HOST 名で東京を指定。

WAIT A MOMENT

** CONNECTED TO TOKYO **

LOGON <————— 東大に対し、LOGON コマンド投入。

JET12012A ENTER USERID-

課題番号

JET12026A ENTER PASSWORD FOR カダイバンゴウ -

パスワード

JGP300 I カダイバンゴウ, LAST ACCESSED DATE=83-04-21 TIME=10-40-00

JET.10065 I TSS カダイバンゴウ STARTED TIME=11:18:13 DATE=83-04-21

***** 04.28 (THU) --> 05.05 (THU) WA ZEN 'SERVICE' YASUMI DESU. ***

'>>NEWS' O GORAN KUDASAI. UPDATE. 38-04-13

WELCOME TO M280H.

YOUR LAST ACCOUNT WAS \5000000 (\497748)

>> NEWS

* * * * * 83-04-13 --> 83-04-28 (S) * * * * *

+ 04.28 (THU) WA GETSUMATSU SHORI BI NO TAME SUBETE NO

'SERVICE' O KYUUSHI SHIMASU. MATA SHUTSURYOKU MACHI 'JOB'

NO KYOOSHI SHUTSURYOKU O OKONAI MASU.

* * * * * 83-04-13 --> 83-04-28 (S) * * * * *

+ 04.29 (FRI) YORI 05.05 (THU) MADE WA 'CENTRE' NAI SAGYOO NO

TAME SUBETE NO 'SERVICE' O KYUUSHI SHI HEIKAN ITASHI MASU.

KUWASHIKUWA " CENTRE NEWS VOL. 15 No.4" O GORAN KUDASAI.

* * * * * 83-04- 5 --> 83-06-29 (S) * * * * *

+ *** 'FORTRAN' NO 'COMPILE OPTION' NO ICHIMI SEIGEN ***

' SUBCHK' WA ' IAP' SHIYOOJI NIWA MUKOO TO NARIMASU.

' CENTRE' DEWA ' IAP' GA HYOOJUN TO NATTE IRU TAME.

' NOIAP' O SHITEI SHINAI TO ' SUBCHK' WA YUUKOO TO NARI MASEN.

```

* * * * * 83-02-15 --> 83-12-31 (S) * * * * *
+ TANKI 'FILE' NO HOZON KIKAN WA RIYOO KAISHI BI
O FUKUMETE 4 NICH I KAN DESU.
>> LOGOFF
JET 110511 USER COMMAND PROFILE BEING STORED
JSN=L10942, CT= 00.52, ET = 00:04:59, MEMORY= 92KB, OUT=0 P,
FILE= (0 KB:\0, 2565KB:\1)
ACCT= ( \38, \2313, \ 497687), NETWORK= (30, \15), HOST=TOKYO
JET100801 TSS SESSION ENDED TIME= 11:26:22 DATE= 83-04-21+
** DISCONNECTED FROM TOKYO **
HOST ? $DONE <----- NVT コマンド $DONE 入力
WAIT A MOMENT
** DISCONNECTED FROM TOKYO **
** NVT SERVICE END **
SYSTEM ? BYE <----- 阪大のシステムレベルに戻り、BYEを入力。
** USED RESOURCE ..... CPU= 1SEC CON= 19.9MIN LINE= PRIVATE
T-ID= $8
** COST: \17
$ N1041 11:36:49 DIS-CP

```

③ 注意事項

- a. CRUN サブシステムを利用して NTSS サブシステムの実行を行うことは、できない。これは、CRUN サブシステムの実行終了時、TSS によって自動的に COUT サブシステムが実行される。COUT サブシステムは、NTSS では判断できないために、CRUN 終了時には、必ず、ゲートウェイプロセッサが切断されてしまう。
- b. NTSS サブシステムがブレークを受け付けるのは、端末にメッセージを入力または出力している時だけである。その他の時のブレークは全て無視される。また、NTSS サブシステムでは、ブレークによる実行の保留等の制御は行う事が出来ない。

④ 現在の NTSS サブシステムで扱える NVT コマンドの種類

入力コマンド	処 理	備 考
\$CLOSE	会話中のホストとの NVT リング解放	HOST?の時は 無効
\$CLS	処理を行う。	
\$DONE	NTSS サブシステムを終了させる。	
	(相手ホストと会話中であれば、\$CLOSE 処理も自動的にされる。)	
\$BYE	TSS を終了させる。(相手ホストとの会話中であれば、\$CLOSE 処理も自動的にされる。)	\$ CHANGE X
\$CHANGE	NVT 識別文字を変更する。	
\$CHG	(パラメータ必要)	
\$ACH		
ブレークキー	NTSS の状態によって異なるが、相手ホストへ	
\$\$\$BRK	IP コマンドを送信する。	
\$BRK		

ネットワーク用コマンドの機能追加について (再掲載)

I. TSS コマンドの NTSS サブシステムの正式運用について

7月1日(金)より、速報(No.102の5)においてお知らせした NTSS サブシステムが正式サービスになりました。

なお、これによって\$\$\$CON, NETWK という方法で、今まで接続していましたが、この方法は、使用出来なくなります。

(1) NTSS サブシステムに追加された NVT コマンドについて

コマンド名	機 能	備 考
\$MSGID {ON OFF}	NTSS サブシステムからのメッセージのメッセージIDの付加/削除を指定する。	
\$SEND	ファイルの内容(阪大システム内)を相手サーバホストに転送する。	ホストと接続中のみ使用可能
\$CPYON	システムと会話している状況をファイルに保存する。	
\$CPYOFF	\$CPYON を取消す。	
\$TSS	ローカルTSS(阪大システム)のコマンドを利用する。	
\$NMES {ON OFF}	センターから送信するメッセージの出力を制御する。	

(コマンドの説明)

① \$SEND コマンド

このコマンドは、自ホストに存在するファイルの内容を相手サーバホストに転送する為のコマンドである。この時、相手ホストに送られるメッセージは、ファイルの1レコードごとに送信される。(244 バイトを超えた場合は、それ以下のみが送信される)

コマンド形式

\$SEND filedescriptor (,LIST)

LIST パラメータ指定時は、相手ホストへ転送した内容が端末にも出力される。

なお、\$SEND コマンドを処理中の時の BREAK では、以下の動作をする。

LIST オプション有 …… LIST オプションを無効とする。

LIST オプション無 …… \$SEND 処理を終了する。

② \$CPYON, \$CPYOFF コマンド

\$CPYON コマンドは、相手ホストとの会話の内容を自ホストのファイルに記録するコマンドである。

\$CPYOFF コマンドは、\$CPYON コマンドを取消す為のコマンドである。

コマンド形式

\$CPYON filedescriptor $\left(\left\{ \begin{array}{l} , \text{BOTH} \\ , \text{SEND} \\ , \text{RECEIVE} \end{array} \right\} \right)$

- BOTH オプション指定時は、相手ホストからのメッセージおよび、利用者の入力したメッセージの両方が記録される。
- SEND オプション指定時は、相手ホストからのメッセージのみ記録する。
- RECEIVE オプション指定時は、利用者の入力したメッセージのみ記録される。

③ ローカル TSS の利用

NTSS サブシステムでは、相手ホストの TSS を利用中に、自ホストのローカルTSSを利用することができる。

コマンド形式

\$TSS コマンド名 パラメータ

④ ネットワーク・メッセージ

\$NMES コマンドは、センターから NTSS サブシステム利用者へ送信するメッセージを端末に出力(\$NMES ON)または、出力を抑制(\$NMES OFF)する。

コマンド形式

$$\$NMES \left\{ \begin{array}{l} ON \\ \underline{OFF} \end{array} \right\}$$

⑥ NTSS サブシステムからのメッセージのIDの付加／削除

NTSS サブシステムからのメッセージIDの付加／削除を行う。

コマンド形式

$$\$MSGID \left\{ \begin{array}{l} ON \\ \underline{OFF} \end{array} \right\}$$

⑦ その他

端末の属性変更（JIS, ASC etc）に関しては、最初に端末から TSS に コネクトしたモードに設定されています。ダイナミックには変更不可能です。

なお、漢字データーの処理は属性変更の指定がASCで可能です。しかしグラフィックデーターは扱うことはできません。この漢字データーは阪大と東北大間のみで使用出来ます。東大・京大はデータ化けが発生する。

II. ネットワーク用“\$RJE2”の制御カードのオプション追加について

\$RJE2 カードが、次のように機能拡張されます。これも7月1日（金）より正式運用になりました。

形 式

カラム1	8	16
\$	RJE2	ホスト名, $\left\{ \begin{array}{l} DUMP \\ \underline{NDUMP} \end{array} \right\}$, オプション

オプション

• $\left\{ \begin{array}{l} \underline{LP132} \\ LP144 \end{array} \right\}$

ラインプリンタ形式のジョブ結果を受信した時に、144桁のラインプリンタ用 SYS OUT を作成することができる。

• $\left\{ \begin{array}{l} \underline{OVERTURN} \\ \underline{OVERCUT} \end{array} \right\}$

ラインプリンタ形式のジョブ結果を受信した時に、LP×××で指定した文字数以上のデータを受信した時の指示を指定します。

OVERTURN …………… あふれた部分は次の行に折返して出力される。

OVERCUT …………… あふれた部分は削除して出力される。

{ PAGEFEED
NOPAGEFEED }

RJE2 実行レポートをシステム・レポートに続いて出力させるか、改頁して出力させるか指示します。

PAGEFEEDの時、改頁して出力させ、さらに、各頁ごとに見出し用のヘッダを出力します。

Ⅲ. NRJE サブシステムについて

NRJE サブシステムで出力するメッセージにメッセージIDが付加されます。

メッセージIDは、〈 NRJE nnnx 〉 という形をとります。

(業務掛)

SPSS のバージョン・アップについて (再掲載)

6月1日(水)より、SPSS を第8版から第9版へバージョン・アップいたします。

この第9版には次の機能が追加されています。

MANOVA：一般線形モデル

BOX - JENKINS：ボックス ジェンキンス法

NEW REGRESSION：重回帰分析(新版)

但し、ACOS 版では、SCSS ファイル、OSIRIS ファイルおよびGRAPHICS オプションを取扱う機能は提供されていません。

新機能に関する詳細は、「SPSS UPDATE 7-9」McGraw-Hill(図書資料室に備えてあります)を参照してください。なお、第9版としての障害・制限事項がSPSS社より通知されています。ファイル“SPSS/ERRMSG”に内容を登録してあります。

TSSではLISTコマンドで端末に、バッチ処理では下記のジョブ制御文でプリンタに出力できます。

*LIST SPSS/ERRMSG, R

1 8 16

\$ CPROC LIST/SPSS, , ERRMSG

(システム管理掛)

言語Cのサービス開始について（再掲載）

58年7月1日から言語Cのサービスを開始します。かねてより利用者の方から希望のありました言語Cですが、契約手続に時間を要したために遅れていたものです。

Cは、バッチ処理またはTSS処理のいずれのモードでも使用できます。以下に、ソースプログラムをコンパイルし実行する基本的な使用法のみを述べます。豊富なコンパイルオプションおよびコマンドオプションが用意されていますので、後述のマニュアルを一読して下さい。

I. 使用方法

○ バッチ処理のジョブ制御言語

\$ JOB	(説明)
\$ BREAK①	① ロードに対するオプションを初期化する。
\$ LOWLOAD	
\$ CC②	② 言語Cのコンパイラを起動する。
\$ PRMFL S*, R, S, 課題番号/ファイル名③	③ パーマネントファイル中のソースプログラムを指定する。
\$ LIBRARY CC, BF④	④, ⑤ 言語Cの関数の登録されているファイルを指定する。
\$ EXECUTE	
\$ PRMFL CC, R, R, LIB/C/LIB1 } ...⑤	
\$ PRMFL BF, R, R, LIB/C/LIB2 }	
\$ ENDJOB	

ソースプログラムがカードデッキの場合は、③の代りにカードデッキを挿入する。

○ TSS 処理

TSS 処理では、CCコマンドおよびGOコマンドの2つのコマンドの組合せにより実行する。ソースプログラムは、テキストエディタ (EDIT) サブシステム下で作成すればよい。

SYSTEM? CC	ファイル名 ①
SYSTEM? GO	 ②

(説明)

- ① パーマネントファイル中のソースプログラムから実行形式のロードモジュール・H (テンポラリファイル) を作成する。ただし実行には至らない。
- ② ロードモジュール・Hから実行する。

II. 使用例

TSS 処理でパスカルの三角形を書くプログラムを実行する。ファイルを作成するときに大文字を使用しているのでオプション「-A」の指定が必要となる。

```
SYSTEM? CC LIBSOURCE/C/EXAM1, R -A
```

```
SYSTEM? GO
```

(実行結果)

```

          1
        1 1
      1 2 1
    1 3 3 1
  1 4 6 4 1
1 5 10 10 5 1
  1 6 15 20 15 6 1
    1 7 21 35 35 21 7 1
      1 8 28 56 70 56 28 8 1
        1 9 36 84 126 126 84 36 9 1
```

なお、マニュアルの付録Fの例題のソースプログラムおよびそのバッチ処理のJCLは下表のファイル（大文字を使用）に登録しているので参考のこと。ただし、必ずリードパーミッションでアクセスすること。

プログラム名	ソースプログラム	JCL
例題 (1)	LIBSOURCE /C/ EXAM1	LIBSOURCE /C/ JCL1
例題 (2)	LIBSOURCE /C/ EXAM2	LIBSOURCE /C/ JCL2

参考文献 FGP01 C説明書, 日本電気 (1982年初版)

(研究開発部・システム管理掛)

FORTRAN 77 (V) の仕様変更について (再掲載)

58年6月1日より、デバッグのための測定機能の仕様が下記のように変更になりました。

測定機能は、次の方法により使用できる。

- (旧) ○ コンパイル時にオプション FTIMER を指定するか、または、プログラム中で
CALL FTIMER 文を引用する。
- (新) ○ コンパイル時にオプション FTIMER を指定する。